7月17日(日) 丹波版(地域24面)

第3種郵便物認可　京都新聞

あぜ道の花 多彩な生態

丹波高原国定公園ビジターセンター 親子向け観察会人気

南丹市美山町のあぜ道や河原を歩き、どんな花が咲いているかを調査する親子向けの観察会を、京都丹波高原国定公園ビジターセンターが昨年4月から行っている。京都大の研究者の協力で、毎月同じコースで植物を採集し、図鑑を基に種類を見分け、既に約130種類を確認している。ただ案内されるだけでなく、主体的に自然を学べるとして好評だ。観察会に同行した。（田中恒輝）

あぜ道に咲く花を探す参加者。この日は34種類が見つかった（南丹市美山町）

9日の観察会は、市内から親子14人が参加した。案内役は「芦生山の家」の岡優香さん（41）と、芦生研究林の調査をしている京都大フィールド科学教育研究センターの赤石大輔特定助教（44）。同センターを出発し、近くのあぜ道と美山川沿いの河原へ向かった。

広がる田園風景は草刈りの直後で、花は一見少ないが、親子らと一緒に目をこらす。記者はなかなか見つけられないが、常連の子どもたちは小さなツユクサ、らせん状にねじれたネジバナ、獣害対策の柵に絡むヘクソカズラを手で摘み取っていく。ハルジオンやシロツメクサといった外来種も多かった。

約600㍍の道のりを30分ほどかけて歩いた後、花を同センターに持ち帰り、色から調べられる手製の資料や図鑑を基に同定する。岡さんや赤石さんに助言されながら、ルーペをかざすなどじっくり観察した。初めて確認したシソのような葉をつける紫色の花は、子どもが図鑑をめくり、ニガクサと分かった。

毎月、同コースで採集 季節ごとの変化確認

この日は昨年の同月とほぼ同数の34種類を確認し、河原よりあぜ道に多かった。岡さんは「春は同じ花がたくさん見られた。現在は量が少ないが多くの種類がある」と説明した。

見つけた花の名前を調べる親子（南丹市美山町・京都丹波高原国定公園ビジターセンター）

美山小4年の中藤萱美香さん(10)は2回目の参加。「こんなに多いと思わなかった」と驚き、母の雅子さんも「先月見つけたクリの花が実になっていた」と季節の変化を楽しんでいた。

昨年の観察会では、4～11月に127種類を発見。月別で最少は4月の22種類、最多は10月の57種類で、夏から秋にかけて増えていく傾向が分かった。調査結果を基に、今年4月には草花の写真と見頃を載せたパンフレットを作り、同センターで配っている。

赤石特定助教は「初めて明らかになった貴重な成果。当たり前の風景の中にこれだけ多様な花があると、市民自らの目で確認してもらいたい」と語った。

次回は8月13日午前9時半から。小学1年生以上が対象で、先着5組20人程度。1人500円。問い合わせは同センター0771（75）9020。

ワイド たんば 体験